

令和 7 年度 第 1 回 堺市スポーツ推進審議会 会議要旨

1. 日 時 令和 7 年 8 月 19 日（火）午後 1 時 30 分から
2. 場 所 堺市役所 本館 3 階 第 1・2 会議室
3. 出 席 委 員 三宅孝昭会長、神谷拓副会長、大西公彦委員、中野貴文委員、
洲上猛志委員、池島明子委員、池田義枝委員、泉谷浩幸委員、
氏林勉委員、香西千尋委員、名里陽委員、林孝浩委員、
本田奈津子委員、森内敬司委員
4. 欠 席 委 員 石田浩史委員、清水万理委員、松井学委員
5. 行政側出席者 スポーツ部長、スポーツ推進課長、スポーツ施設課長、
スポーツ推進課長補佐、スポーツ施設課長補佐、スポーツ推進課企画係長、
スポーツ推進課推進係長、スポーツ施設課施設係長、スポーツ施設課管理
係長、スポーツ施設課主査
6. 傍 聴 者 3 人
7. 議 題
会長・副会長の選出について
第 4 次堺市スポーツ推進プラン策定に係る骨子案について
8. 会長・副会長選任
令和 7 年・8 年度の堺市スポーツ推進審議会会長に三宅孝昭委員、副会長に神谷拓委員
が選出され、就任が決定した。
9. 会 議 内 容
事務局より議題（2）について「会議資料」を用いて説明

質疑応答

【湊上委員】

資料 24 ページ、今後のスケジュールについて。次期堺市スポーツ推進プランの重要なターゲット層とされている若年層やこどもからの意見を聞くための取組を追加していただきたい。

【事務局】

例年、政策企画部が実施している「市民意識調査」では 18 歳以上を対象としているが、4 月にスポーツ部が実施した「スポーツに関する市民意識調査」では、より多くの若年層の意見を取り入れるため、調査対象を 15 歳以上としたアンケート調査を行った。今回頂いたご意見も踏まえ、今後どういった取組ができるか検討する。

【湊上委員】

資料 10 ページ、市内体育館等スポーツ施設利用者数について。利用者のスポーツを行う、観戦するといった目的別のデータは持ち合わせているか。

【事務局】

現在は利用用途別のデータは持ち合わせていない。今後、目的別利用者数の把握に努めていく。

【湊上委員】

事務局が行っている取組の効果検証にも関わるため、把握に努めていただきたい。今後、目標設定を行う際は、個別の目標を設定し次期プランに反映いただくのが良い。

【事務局】

令和 7 年度第 2 回スポーツ推進審議会では、目標数値についてご審議いただく予定としているので、検討していく。

【泉谷委員】

施設利用者のカウントは具体的にどのような形で行っているのか。

【事務局】

施設利用者からの利用報告を積み上げてカウントしている。

【泉谷委員】

大会を開催した主催者から利用者数の報告をしているということか。

【事務局】

そのとおり、主催者から報告いただいている。

【三宅会長】

資料 12 ページ、スポーツ少年団の団員数の減少について。こどもの数の減少割合と比べ、少年団員の減少割合の多寡をお示しいただきたい。

【事務局】

平成 18 年に少年団の団員数が約 4,300 人。令和 6 年では約 2,000 人に減少している。少年団を構成している小学校 1 年生から 6 年生に当たる人口については、平成 18 年では約 4 万 9000 人程度、現在は 4 万人程度となっており、率に換算すると平成 18 年が 8.8 パーセントへ、令和 6 年が 5 パーセントとなり、率も減少傾向にある。

【三宅会長】

こども人口減少率に対し、少年団の減少率は少ないということか。

【事務局】

少年団の減少率のほうが高い状況である。

【池島委員】

資料 9 ページ、課題及び今後について。堺市民オリンピック参加人数の減少傾向対策として、誰もが気軽に参加できるニュースポーツの正式種目を実施とあるが、種目選定と参加選手の増加に繋がる活動が必要と考えるが、現在の進捗を伺いたい。

【事務局】

堺市民オリンピック委員会で議論いただき、正式種目化に向けて検討を進めている。令和 10 年度大会の正式種目化を目標に進めているところ。今年度開催の第 51 回堺市民オリンピックでは、ディスコン体験会を実施し、来年度、再来年度の 2 年度かけてオープン形式のプレ大会を実施する。その上で、問題点等を検証し、令和 10 年度の正式種目化に向けて計画を進めている。

【池島委員】

ディスコンは運動量のないバリアフリーなスポーツであり、高齢の方でも楽しめる室内スポーツだが、運動量の確保という点では、若年層等にとってほとんど効果がないと言っても過言ではないと考えられる。種目設定の際には、運動習慣の獲得、健康増進・体力の維持に繋げるといった視点からも検討いただきたい。

【事務局】

堺市民オリンピック委員会でも、いただいた意見を踏まえ検討を進めていく。

【三宅会長】

誰でも簡単にできるスポーツは取り組みやすい反面、スキルを要求されず継続に繋がっていかないデメリットもある。スキルを身に着けることによって面白さが膨らむ要素がある競技を取り入れるのも良いと思うので検討いただきたい

【林委員】

今日に至った理由を明らかにしていくことが次につながる。堺市民オリンピックの参加人数も開催年毎に参加数を算出し、現状の減少割合、どの年齢層が減少しているのかを明らかにすれば、課題と対策が見えてくる。資料作成の際は、詳しい内容を盛り込んでいただきたい。

【中野委員】

資料 15 ページ、スポーツに関する市民意識調査では、「アーバンスポーツなど、人気が高まっているスポーツの普及促進」が 2.3 パーセントと低い結果であるが、「第 4 次堺市スポーツ推進プラン」の「新計画に取り入れる新たな視点」の、1 つの柱としてどのような意図で取り入れられたのかを伺いたい。

【事務局】

東京五輪、パリ五輪で新たに正式種目として採用されたこと、若者が利用する SNS 等でも普及が少しずつではあるが進んでいると実感しており、本計画に取り入れる新たな視点としてアーバンスポーツの普及を加えさせていただいた。

【中野委員】

アーバンスポーツは、都市部や街中でスポーツを行っていくものだと思うが、施設利用ではなく街中で市民が体感・体験できる機会を提供していくということか。

【事務局】

アーバンスポーツは、実施できる場所の制限が少ない点も評価している。「ながら運動」、ニュースポーツに加えアーバンスポーツの推進も行っていく。一方で、マナーを遵守するという視点がアーバンスポーツでは重要だと考えており、啓発イベントや体験イベント行う際には、これまでと同様にマナー啓発を合わせて行っていく。

【林委員】

アーバンスポーツについて、若者が公道で楽しんでいるという現状があり、堺市としてアーバンスポーツを実施しても良い場所を市民にアナウンスし、定められた場所で楽しめる体制作りが重要かと考える。

【泉谷委員】

アーバンスポーツの競技人口は把握できているか。

【事務局】

正確な統計等がなく、現状お示しできるものを持ち合わせていない。

【泉谷委員】

統括団体についてはどうか。

【事務局】

統括団体についても、すべて把握はできておりません。昨年度、体験会を開催した際は、スクール等を運営している事業者に協力をいただいて実施している状況。

【三宅会長】

堺市は自転車に注力していることから、そのような視点も取り入れてもらいたい。

【神谷副会長】

淵上委員から発言のあった、こどもの意見を反映させる必要があるという意見は同感。こどもたちがクラブや部活に何を求めているのか、生の声を聞くシンポジウムを教育委員会と開催した経緯があり、アンケート回答では得られないリアルな声を聞くという意味で開催して良かったと感じている。その様な取組も共有してもらいたい。こども基本法の中で、こどもに関わる施策に関して、こどもの意見を反映させることが重視されており、新たな取組を行っていただきたいと感じている。

もう1点、資料17ページの部活動の地域展開について、学校と地域が連携して取り組む状況になっており、社会的にも大きな課題になっている。地域展開であることからスポーツ推進計画で触れておくのが妥当であり、社会問題化、あるいは課題になっているこどものスポーツの環境を学校と地域でどのように保障するかをメッセージ発信できれば良いと考える。

また、先ほどから議題に上がっているアーバンスポーツも、中体連の種目には入っていないことから、その様な競技の推進は、新たなこどものスポーツの受け皿になるという捉え方も可能であり、部活動の地域移行や地域展開に関して、どのようなメッセージが発せられるかという視点からも再考いただきたい。

【林委員】

部活動は、先生にとって業務であり、時間外労働が非常に多い先生は、部活の顧問として休日に引率している。学校のスポーツ活動は地域にお願いし、地域が責任を持って若者のスポーツ推進を図っていただきたいと考えている。学校の先生の負担軽減を考慮した施策を考案していただきたい。

【森内委員】

スポーツ少年団について、間違いなく登録団数が減少している。こどもの数が減少していることも一因だが、登録料を払ってまで所属するメリットが感じられない。事業大会等の取組もないことから登録しない団が増加している。また、学校施設の利用条件が厳しくスポーツができる場所の確保が難しくなっている。施設利用の条件緩和等を検討していただく必要があると感じている。

【事務局】

スポーツ少年団に加盟する団体が減少していることに様々な要因があろうかとは思います。基本的な面や施設面での利用について現実と乖離している部分につきましては、教育委員会とも連携し、いただいた意見を伝えます。

【大西委員】

資料 14 ページ、「1 回 30 分以上の運動を週 2 回以上行う者」の統計について説明いただきたい。

【事務局】

「この 1 年間に 1 日 30 分以上の運動やスポーツを実施した日数を全部合わせると、何日くらいになりますか。」の問いに対して、資料に記載のある選択肢から回答があったものを集計している。

【大西委員】

回答について、自己申告であり正確性に疑問を感じている。より効果的な方法がないか検討をお願いしたい。

【泉谷委員】

現在の中学校の現状をお伝えすると、運動部の入部率が非常に減少している。チームスポーツの人数が揃わず、合同チームを作成する学校も多い。

もう 1 点、こどもの人数が減少することにより教員の人数も減少している。堺市は全員顧問制を採用しており、全ての先生が顧問を受け持っている。職員が減少しているなかクラブ数は減少がゆるやかであり、1 人の先生が複数の顧問を兼務している状況がある。多くの学校で、部員が減少した部活は

活動を停止している。そのような中での部活の地域移行だが、マイナースポーツや競技人口が少ないスポーツは受け皿がなく、一概に地域移行というのも難しいと感じている。

また、学校において部活動は生徒指導においても大きな役割を果たしている。部活動が消極的になることにより、色々な形で昔とは変わってきていると感じている。

【林委員】

学校の先生と面談をしていると、クラブ活動の顧問に対し、大きなストレスを感じている先生がいるのも事実。一度もスポーツに携わったことがない先生が、顧問の任に当たらなければならず、真摯に向き合う先生は責任を感じている。教員の数が減少していく中で、クラブ活動の管理・指導が、継続ができるのかと感じている。そういう意味では、地域移行を推進し、地域で活動できる場を設けて移行することが大事だと考えている。それに対して、行政による支援を期待している。

【泉谷委員】

現在の部活動の在り方が地域にそのまま移行できるとは考えておらず、保護者や地域住民の考え方の変化を促し、新しい形の活動になると考えている。

【神谷副会長】

部活動の地域移行に取り組む中で、地域に出ることによって文化享受の格差が生じる問題が発生している。他の自治体の調査や統計を見ると、サッカーの様なメジャースポーツは多くの地域でカバーできているところもあれば、そうでない種目もたくさん出てきている。一方、全く地域クラブの恩恵を受けていないような学校もあり、ラジカルに（急速的に）地域に出そうとすると、その様な問題が出てきてしまう。基本計画の中では、そういった問題も視野に入れた計画策定が必要。また、経済格差の問題が生じ、地域クラブに参加できない家庭が出てくるとも想定しておく必要がある。実際に、これらの問題が出てきており、慎重に状況を見ながら判断していく必要がある。

堺市の中学校で、現在、成果を検証している段階だが、アスレチックトレーナーという専門職に複数の部活動の管理と指導を任せ、その間に顧問の先生を休ませるという取り組みを進めている。教育政策としても推進すべきことだが、企業、自治体、スポーツ団体、地域などが連携し、こどもや市民のスポーツシーンを盛り上げることが資料 16 ページに記載されていることから、このようなアスレチックトレーナーの派遣等も計画の中で生きてくる。

働き方改革が求められている学校現場の実態や、地域に出そうとしても上手くいかない中で、現実的な対応としてどのような取組をしていくのかの方向性は示した方が良い。教育委員会で行っている取組を情報共有し、活用していただきたい。

【森内委員】

スポーツ少年団中央大会の屋外競技が猛暑により夏場の実施ができない状態。秋以降の会場の確保について検討いただきたい。

【淵上委員】

例えば、アーバンスポーツ等ができる場所について、公園管理、道路管理等に関わる問題もあるため、初期段階から関係部局と共有していくスキームを構築していただきたい。

また、近年の猛暑のため、特にこども達が、屋外での運動やスポーツを実施することが難しくなっている。夏場にスポーツや運動を行う施設や、前述の部活動の地域展開等について、教育委員会はともに関わることであるので、連携すべき。

【中野委員】

資料 20 ページ、新プランに取り入れる新たな視点の項目のひとつにあるスポーツツーリズムについて、目標値の策定と効果検証はどのように行う予定か。

【事務局】

現時点において明確な形をお示しできないが、堺市内の宿泊者数、滞在期間や周遊等について観光部と連携し行っていく。

【林委員】

堺は歴史的に重要な場所であり、遺跡が多く残っている。古墳時代から始まり、中世の千利休等の歴史が残っているにも関わらず堺の知名度が低いと感じる。全国的なアピールを期待している。